2
【ひろばの風】
時々の思い出
聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部
学長　ホビノ・サンミゲル

5
【ひろばの風】
建学の精神に倣い、地域に愛され
地域とともに発展する大学
聖カタリナ大学　教授
恒吉　和徳

6
【Campus News】
・看護学科学生がマーシャ大学（マレーシア）と看護国際交流
・本学教員の馬越千里 助教が第77回とちぎ国体・剣道競技・成年女子の部・愛媛県代表選手として５位入賞
・令和４年度 理事長講話の開催
他

7
【Campus News】
・令和４年度「大学祭パイプオルガン演奏会」開催
・「第５回スポーツ・レクリエーションフェスティバルin風早」を開催
・本学留学生が湯築小学校の児童と友好交流を行う
・令和４年度愛媛銀行寄付講座公開講座「風早の塾」の開講

Amor et Veritas
SCU

カタリナ ひろば

Vol.35
2023.2

聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部
www.catherine.ac.jp

8
【Campus News】
・クリスマス　イルミネーションの点灯について
・松山赤十字病院への竣工記念樹「モミの木」の贈呈式について
・令和４年度学長賞を授与
他
【ご寄付のお願い】
教育振興募金のご案内

9
【ようこそ就職課へ】
就職課長補佐　蔵前　純二

10
【ESSAY】
つながりの大切さ
聖カタリナ大学社会福祉学科
雑賀　正彦

11
【ゼミナールインタビュー】
人間健康福祉学部
健康スポーツ学科
今城　遥ゼミ

12
【クラブ紹介】
読み聞かせクラブもちもちの木
【教員著書紹介】
保育内容指導法「人間関係」
谷口　聖
（聖カタリナ大学短期大学部　保育学科　助教・萌文書林）

時々の思い出

聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部
学長　ホビノ・サンミゲル

聖カタリナ大学・短期大学部（以下大学）の退任に当たり、その長い在職期間中に起こったさまざまな出来事について綴りたいと思います。

時の流れ

2017年に短期大学部創立50周年、大学は創立30周年記念を祝いました。人間の年齢からみれば短大は中年時代になっています。大学は青年時代を超えようとしています。しかし大学の教育活動の実績の観点から見れば両方とも若いです。また、何百年と続けてきた大学と比べたらまだまだ子供として写ります。ですからこの大学が教育機関として歴史に残るためには少なくとも100年は必要であろうと思われます。そのためには、発展すると同時にしっかりとした強固な基盤をつくっていく必要があります。聖カタリナ大学は誕生以来、歴史の中で自分の地位を求め続けなければなりません。これは、皆さんの将来にとって大きな仕事だと思います。

私と聖カタリナ女子短期大学との関係は1981年にさかのぼります。私が愛光学園で教鞭を執っていたとき、短期大学から宗教学を教えるために非常勤として声がかけられました。７年間教えた後1987年に大学を設置する準備のために短期大学の専任講師になりました。その後、1988年に聖カタリナ女子大学が開学し、私は最初の４年間、1992年までは専任講師として教壇に立ちました。聖カタリナ女子大学の学長に選出されたのは2000年でしたが、私の勤めていた大学の都合によって2001年４月まで着任することができませんでした。

卒業式

基礎造り

学長になったのは21世紀に入ったばかりでしたが、大学を取り巻く環境に大きな変化が起こり始めました。その頃まで大学は入学者を選ぶことができましたが、学生のほうから自分が勉強するための大学を選べる時代になってきました。聖カタリナ女子大学はこの厳しい状況を乗り越えるために抜本的な改革が必要でした。そして21世紀に輝き続ける魅力のある大学として存続させるために、しっかりとした固い基礎の上に再構築しなければならないと考えました。

地域に開かれた大学

21世紀に入り社会は大きく変わり、急速な少子化の中、福祉系大学も各地に開設され、また北条市へのアクセスも充分ではありませんでした。こうしたことから、小規模大学としては県外の学生を集めるのは難しいことだと考えるようになりました。そして私は自ら県内の高等学校を何回も訪問した結果、本学は地域の大学として存在しなければならないと認識しました。大学と地域社会がお互いに支え合いながら、学問を通して文化的に発展する必要性を強く感じたのはこの頃でした。

愛媛銀行寄付講座　公開講座「風早の塾」

建学の精神が新しい表現

私学の大学にとって建学の精神は大切です。文部科学省から指摘があって、「建学の精神は解りやすく、そして覚えやすく」直すように指導がありました。本学は創立者聖ドミニコ会の「真理を観想し、その実りを他に与えましょう」とありましたが、カトリック教会と聖ドミニコ修道会の精神を考えて、『愛と真理』としました。

「愛」とはキリスト的愛です。それは、隣人への愛です。キリスト的愛は隣人への愛に他ならないからです。隣人への愛は人間の生活、平和、そしてすべての善の基盤であり、聖カタリナの言葉でいえば、「Charity for Your Neighbours」(あなたの隣人を大切に)。これはスクールモットーとして取り扱うことになりました。

「真理」。真理とは聖ドミニコ修道会のモットーになっています。ここでいう「真理」とは、神のことを指しています。世界の平和と人類の共通善のために真理の探究はすべての学問の目的であり、学生たちは普遍的な価値を身に付けなければなりません。

そして、学生が心身ともに強い人格を構築するために学訓に「高邁」という要素を加え、誠実と奉仕とともにキリスト教の気高い人間観を形成するためのメッセージを与えました。

男女共学と国際化

現代のグローバリゼーションの中で大学は国際的な感覚を持つ必要があります。本学が持っている他にはない価値を世界に伝えなければなりません。また本学も国際社会から影響を受け、学問的にも文化的にも発展しなければなりません。これらの国際的な交流によって学生は開かれた心を育成することができます。

2004年に聖カタリナ大学は男女共学化に踏み切りました。この時から優秀な女性と共に優れた男性も入学して来ました。この変化は大学にとって大きな出来事であり、大学が発展するための歴史的なことでした。これによって大学は元気で新しい道を歩むことになりました。また、性別にとらわれることなく留学生を受け入れることができるようにもなりました。

国際的な社会で生きている私たちは、大学も国際感覚を持たなければなりません。本学は国際的な精神を学生に与えるために約40大学と連携しています。アジアのカトリック大学の連盟ASEACCUと連携し、またICUSTAという連盟に加盟しました。ICUSTAはドミニコ修道会の最高の学者、聖トマス・アクィナスの教えに基づいて運営している大学の国際的な連盟です。５大陸、約25大学の連携で成り立っている連盟です。こうした国際化に呼応して、Saint Catherine Universityを「SCU」の略語で表記することになりました。

松山市と連携協力協定を締結

家庭的キャンパス

聖カタリナ大学はカトリック大学として学問の共同体であると同時にキリスト教的な環境の中で明るく楽しいキャンパスを持たなければならないと思ってきました。このキャンパスの雰囲気が最も表す言葉はファミリア(Familia)です。家庭を支えるのは愛と信頼です。小規模大学として学生と教職員との交流によって友情を育て、お互いに信頼し、助け合いながら学問を身に付けることができるファミリーキャンパスであることを推進し、より充実させていく

大学祭ミサ

ことを願っています。その中で、お互いに尊敬し、素晴らしい人格を育成してほしいです。

また、この家庭的な雰囲気は宗教的な行事をとおして表現してきました。「一緒に祈る家族は一緒に平和と喜びのうちに生きる」ということわざがあります。大学は創立の時から教員と学生が集まって共に祈る素晴らしい伝統をつくり、守ってきました。奇麗なホールで、一緒に歌い、一緒に祈り自分を見つめて、心の中に精神的な敬虔を味わうためのユニークな機会となっています。それは「母をたたえる日」「大学祭のミサ」「クリスマスのミサ」などです。最近はコロナ禍のために完全に実施することができなかったことが寂しく感じました。これからも建学の精神を生かすためにこれらの行事を大切にしてほしいのです。

学生と懇談会

この家庭的な雰囲気を育てるために学長と学生との交流を大切にしました。毎年「学長と学生との懇談会」を行いました。大学は学生のためにありますので、より良い大学をつくるために学生の声を直接に聞く必要があると思いました。この懇談会を通じて学生の不満、要望を知ることができとても良い機会でした。毎回話し合いの時間は長くなりましたが、一緒に有意義で楽しい時を過ごしました。

開かれた道へ

男女共学化と、学科改編を継続して行ってきた大学は発展していくと確信しています。この改革では2011年に「人間社会学科」、2014年に「健康スポーツ学科」、2017年に「看護学科」を開設することができました。そして2022年４月に看護学科を基礎とする大学院の設置を行いました。

学長と学生との懇談会

このように、聖カタリナ学園の有する高等教育機関は、地域にふさわしい学部や学科の編成を果敢に成しとげ、社会の求める人材養成に応えてきました。

しかしながら、大学がまだまだ若い大学であることを自覚し、長いビジョンを掲げ自由な発想と確固たる信念をもって発展させることを心から願うとともに、これまでの長い月日にわたり支え導いていただいたすべての方々の愛に感謝し、回想のペンを置くことにいたします。

建学の精神に倣い、地域に愛され 地域とともに発展する大学

聖カタリナ大学　教授　恒吉　和徳

表題は聖カタリナ大学グランドデザイン2025（以下グランドデザイン）に掲げた本大学のめざす姿である。グランドデザインとは建学の精神・大学の使命・教育研究目的を踏まえ、本学の将来像（ビジョン）とそれを実現するための重点施策を示すものである。このグランドデザインの実現に向けた各領域ごとの５か年間の目標、行動計画を定めたものとして「中・長期経営計画」も策定しているが、いずれにせよ本学が今後も競争的環境下において選ばれる大学であるために、その目標・計画を戦略的に示し、具体的な取組みの全体像を明らかにしたものといえる。

ところで、令和２年10月１日現在で実施した国勢調査の人口等基本集計結果（総務省統計局）によると、愛媛県の年少人口（15歳未満）は５年間で約16,000人減少している。「18歳人口推移、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向2021」（リクルート進学総研）によると、四国地区の18歳人口は約10年後は現在より約5,600人減少することが予測されており、特に減少数が多いのは愛媛県で、2021年の12,483人から2033年は10,451人へと2,032人減少するとのことである。大学への進学率（現役）はこの10年間で約６ポイント上昇しており、地元残留率は2021年は28.1ポイントでこの10年間でほぼ横ばいとなっている（愛媛県の進学率は50.0で4.4ポイントの増、地元定着率は33.1％で1.5ポイント増）。今後も地方の大学においては厳しい状況が続くことが予想される中、安定した大学運営を行っていくためにはグランドデザインに掲げた内容をどこまで実行できるかが重要な課題となってくるであろう。

さて、このグランドデザインには新たなステージへの挑戦として４つの柱が掲げられているがその中の一つに「社会連携、社会貢献への挑戦」がある。具体的な取組みとして産学官連携推進やSDGsへの積極的な取組みなどがあるが、地域とのつながりに関してはグランドデザイン策定にあたって参考とした「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」（2018年11月　中央教育審議会）のなかでも高等教育機関における「地域との連携」の必要性が明記されており、そのための具体的取組みの一つとして「地域連携プラットフォーム」の構築が推進されているところである（地域連携プラットフォーム構築に関するガイドライン～地域に貢献し、地域に支持される高等教育へ～令和２年10月文部科学省高等教育局）。教育基本法の全面改正（2006年）以降、大学の使命（役割）として、従来の研究・教育活動に加えて社会貢献が明確化されたことにより、大学における地域連携の取組みを促す多様な政策が展開され、各大学では広範多岐にわたる地域連携活動が実施されるようになったが、今後も大学は社会変化や今後の将来を見据え、地域住民をはじめ様々な関係機関や団体などと連携しながら地域社会の課題解決に取組むなど積極的な役割を果たすことが期待されている。本学においてもこれまでまちづくりやボランティア活動、産学官連携事業などに積極的に取組むとともに、2017年には地域との連携、社会参加活動を促進するための総合窓口として、地域連携推進室も設置したが、今後も地域社会への関心力を高め、地域課題の解決やニーズ充足に積極的に関わっていく必要がある。そのためには目標にチャレンジする教職員、学生の主体的な行動、チームによる問題解決への挑戦が求められる。ただし、大学が持つ人的、物的資源には限界もある。地域にある各機関、団体、企業等といった地域にある様々な資源との連携、協働が必要である。普段から地域社会にアンテナをはり、情報を収集し、関係作りに努めておく必要があることは言うまでもない。

本学が地域に愛され、地域とともに発展し、地域社会を構成する貴重な社会資源となり得るためにこれからも不断の努力が必要である。

Campus News

看護学科学生がマーシャ大学（マレーシア）と看護国際交流

７月22日㈮、看護学科の開講科目である国際看護学の授業の一環としてマレーシアにあるマーシャ大学とオンラインによる国際交流を行いました。

マーシャ大学は看護学科を有する大学であり、新型コロナウイルスによる行動制限がなければ、本学学生が訪問し現地の医療や文化を学ぶ大学です。当日は本学から16名、マーシャ大学から７名の学生が参加し、お互いの大学の看護教育、ホームタウン、母国の文化について紹介をしました。両国の学生は、互いの国への理解を深めるとともに互いの町を訪れてみたいという気持ちが高まりました。

本学教員の馬越千里 助教が第77回とちぎ国体・剣道競技・成年女子の部・愛媛県代表選手として５位入賞

10月２日㈰～４日㈫に開催された第77回国民体育大会（とちぎ国体）に、健康スポーツ学科教員の馬越千里助教（剣道部監督）が剣道競技・成年女子の部（３人制団体）の愛媛県代表選手として出場し、５位入賞の成績をおさめました。

馬越千里 助教（中央）

令和４年度 理事長講話の開催

10月12日㈬に北条キャンパス、10月19日㈬に松山市駅キャンパスで理事長講話を開催しました。

当日は、本学のスクールモットーである「Charity for Your Neighbours（あなたの隣人を大切に：シエナの聖カタリナの言葉）について」をテーマとして、中田婦美子理事長から講話がありました。

理事長講話は毎年１回、キャンパス毎に行われており、理事長より建学の精神と本学の目的等に沿った具体的テーマで講話があります。

「コンソーシアムえひめインターンシップ」の研修報告会を開催

10月18日㈫、聖カタリナ大学人間社会学科では、夏期に参加した「コンソーシアムえひめインターンシップ」の研修報告会を行いました。

学生それぞれの経験や課題を振り返り、今後の就職活動に備える、大変よい学びの機会となりました。

コロナ禍を鑑み、研修にご協力いただいた事業所の皆様をお招きせず、学内関係者のみで実施しましたが、業界や職種についての学生同士の情報交換も兼ねており、各自、真剣にメモを取りながら臨みました。

事業所からいただいた研修評価については、教職員が分担し、すべての学生に対して個別にフィードバックを行い、自己評価と他者評価の確認、長所や課題、就職活動の方向性などを話し合いました。

令和４年度　大学祭「彩～いろどり～喜びと楽しみの共有を心に」開催

【北条キャンパス】

10月28日㈮～30日㈰、大学祭が北条キャンパスで開催されました。

今年の大学祭は、保護者や一般の方もご来場いただけるように新型コロナウイルス感染症対策を充分に講じたうえで開催しました。

10月28日㈮、学生と教職員を対象とした学内ミサが聖カタリナホールで行われました。

10月29日㈯・30日㈰の一般公開日には、生花展示、ステージショー（手話コーラス、ダンスパフォーマンス）、スペシャルライブ（LONGMAN･唯我独尊）、子どもの遊びコーナー（保育学科）、入試相談コーナー、チェキ撮影会、ゲーム交流会、パイプオルガン演奏会等が行われました。

【松山市駅キャンパス】

10月30日㈰、大学祭が松山市駅キャンパスで開催されました。

看護学科の学生による災害ブース、ベビー人形、妊婦体験、ヨーヨーすくい等の様々な企画が行われました。

なお、看護学科のオープンキャンパスwith大学祭も同時開催しました。

今回はwith大学祭ということで、いつもとは違った雰囲気の中での開催となりました。参加者の方には、オープンキャンパスのプログラムの他に、大学祭のプログラムにも参加していただきました。

両キャンパスへの多数のご来場とご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

令和４年度「大学祭パイプオルガン演奏会」開催

10月30日㈰、北条キャンパスの聖カタリナホールで「大学祭パイプオルガン演奏会～ダンスのリズムにのって～」を開催しました。

当日は、管藤泉氏（スペイン バルセロナドイツルター派教会専属オルガニスト、ティアナ カトリック聖セブリア教会オルガニスト）をお招きし、J.S.バッハ『トッカータとフーガニ短調』、P.チャイコフスキー『白鳥の湖』等の演奏がありました。

３年ぶりの開催ということもあり、多数の方にお越しいただきました。また、演奏会終了後には「公開オルガン体験会Ⅷ～パイプオルガンを弾いてみよう～」も開催されました。

ご来場いただきました皆様、誠にありがとうございました。

「第５回スポーツ･レクリエーションフェスティバルin風早」を開催

11月５日㈯、市民の方々約500名参加のもと「第５回スポーツ・レクリエーションフェスティバルin風早（主催：松山市文化・スポーツ振興財団、聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部）」が北条スポーツセンターで開催されました。

このイベントは松山市文化・スポーツ振興財団との連携協定の一環で開催される毎年恒例のスポーツフェスティバルです。

当日、体育館では「聖カタリナ大学杯 親子チャレンジ・ザ・ゲーム、親子でなかよしミニ運動会」、体力測定会＆健康・運動相談コーナー、ロコモ予防啓発コーナー、ファミリーフィットネスチャレンジ（ピラティス･自力整体等）が行われました。

親子チャレンジ・ザ・ゲーム、親子でなかよしミニ運動会では保育学科の学生がイベントの企画・運営に携わりました。学生にとっても授業で学んだ内容を活かすことができ、レクリエーション・インストラクター資格としての役割を学ぶ良い機会となりました。

体力測定会＆健康・運動相談コーナー、ロコモ予防啓発コーナーでは健康スポーツ学科の教員・学生から健康に関する助言等が行われ、健康管理や自身の体力についてご理解をいただきました。また、屋外グラウンドではグラウンド・ゴルフ大会が行われました。

今後も本学は松山市文化・スポーツ振興財団と協力し、教育機関として皆様の健康増進・健康管理を継続してサポートしていきます。

本学留学生が湯築小学校の児童と友好交流を行う

11月22日㈫に本学の台湾からの留学生、人間社会学科４年生の馬映俠さんと羅少彤さんの２名が、友好交流推進員として湯築小学校を訪問しました。

６年生の児童に台湾の小学校紹介、名物や数字の数え方を紹介し、簡単な中国語クイズとレッスンを行いました。昨年はオンラインでの交流でしたが、今年は対面で児童の皆さんと楽しく交流することができました。２人にとっても良い留学生活の思い出になりました。

令和４年度愛媛銀行寄付講座公開講座「風早の塾」の開講

株式会社愛媛銀行とのSDGsの推進に関する連携協力協定（令和３年12月締結）の取り組みとして、令和４年度愛媛銀行寄付講座公開講座「風早の塾」を開催しました。

今年度は、「SDGs：持続可能な社会をめざして―まち･ひと･いのち―」をテーマに、一般の方、学生を対象として全15回（５月13日㈮～12月９日㈮）の講座が開講され、延べ1,428名の方々にご参加いただきました。

クリスマス　イルミネーションの点灯について

冬の風物詩となった聖カタリナ大学のイルミネーション。

北条キャンパスと松山市駅キャンパスにてクリスマス イルミネーションを点灯しました。カトリック大学らしい幻想的な光に彩られていました。

松山赤十字病院への竣工記念樹「モミの木」の贈呈式について

12月21日㈬、松山赤十字病院の新病院の完成を祝い、学校法人聖カタリナ学園から竣工記念樹「モミの木」を寄贈し、贈呈式が同病院で行われました。

当日は、中田婦美子理事長とホビノ・サンミゲル学長が同病院を訪れ、西﨑隆院長に目録等を手渡しました。

本学園と松山赤十字病院とは、平成27年から地域医療に貢献できる優秀な看護人材を育成することを目的として、病院実習の受け入れなどに関する協力協定を締結しています。

今回は、聖カタリナ大学看護学科の学生の病院実習受け入れなどへの感謝も込めて寄贈しました。

なお、モミの木は正面玄関近くの平面駐車場内に植樹しています。

令和４年度学長賞を授与

スポーツ・ボランティア・文化活動で活躍した学生及び団体に対する学長賞の授与が、12月20日㈫学内クリスマスにおいて行われました。

今年の受賞者は以下の皆さんです。

［スポーツ表彰］
硬式野球部　窪田　寛之さん（健康スポーツ学科）
硬式野球部　池田　泰征さん（健康スポーツ学科）
剣道部（団体表彰）
女子バスケットボール部（団体表彰）
陸上競技部　石山　大輝さん（健康スポーツ学科）
スポーツクライミング　相原　麻菜美さん（健康スポーツ学科）

［文化活動表彰］
大学祭実行委員会
（団体表彰）
ダンス部（団体表彰）

聖カタリナ大学及び聖カタリナ大学短期大学部の次期学長の選任について

11月26日㈯開催の学校法人聖カタリナ学園理事会において、任期満了に伴う聖カタリナ大学及び聖カタリナ大学短期大学部の次期学長に、坂原明（現 聖カタリナ大学副学長／看護学科 教授）が選任されましたことをお知らせいたします。

任期は令和５年４月１日から３年間です。

聖カタリナ大学　人間健康福祉学部長選挙について

聖カタリナ大学人間健康福祉学部においては、現学部長秋山昌江教授の任期満了（令和５年３月31日）にともない、次期学部長選挙を12月21日㈬に行い、大黒屋貴稔教授が選出されました。

任期は令和５年４月１日から２年間です。

聖カタリナ大学短期大学部　保育学科長選挙について

聖カタリナ大学短期大学部保育学科においては、現学科長竹田信恵教授の任期満了（令和５年３月31日）にともない、次期学科長選挙を２月１日㈬に行い、竹田信恵教授が選出（再任）されました。

任期は令和５年４月１日から２年間です。

ご寄付のお願い【教育振興募金のご案内】

学校法人聖カタリナ学園は、2025年に創立100周年を迎えます。

聖カタリナ学園では聖カタリナ大学･聖カタリナ大学短期大学部の教育事業を永続的に発展させるため、また、教育環境の維持、充実を図るための支援として、皆様からの募金のご支援を受け付けております。

趣旨をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【お問い合わせ･お申し込み先】
学校法人聖カタリナ学園 法人本部事務局　〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地
TEL 089-993-1300　FAX 089-992-5616

ようこそ就職課へ

就職課長補佐　蔵前　純二

就職課は５名体制でキャリア支援を行っています。学生の個別指導、就職ガイダンス、公務員試験・資格試験対策講座、教員や外部機関と連携した授業支援等を実施しています。私たち就職課の強みは継続的な個別支援です。就職で悩んでいる学生にはキャリアカウンセリングを通して、前向きな気持ちで一歩踏み出せるように支援しています。さらに、学生と企業・事業所双方のニーズを引き出し、学生と就職先を繋ぐ役割を担っています。

学生は、不透明で変化の激しい時代の中で絶対的な正解を見つけにくい状況にあります。最善の支援ができるよう、就職課も時代の変化に合わせて常にアップデートしなければなりません。新しい取組みとして、早期から自分自身や社会を知る機会を提供するために、社会人との交流会や企業訪問を企画しています。以下にその取組みの一部を紹介します。

①学内企業説明会

月１回程度、地元企業の経営者や採用担当者に参加いただき、学内で企業説明会を実施しています。主に大学２～４年生を対象とした２～３社合同の企業説明会です。10社以上が集まる中規模の企業説明会も年に数回実施しています。経営者や採用担当者とじっくり話ができると、学生に好評です。

②職業観を深める　社会人×学生の交流会 in 松山銀天街

夏休み期間を利用し、北条キャンパスを飛び出して松山銀天街のコワーキングスペースで交流会を開催しました。就職活動中の４年生と、メーカー、商社、物流会社の人事担当者、ハローワーク、キャリアコンサルタントなど様々な立場の社会人が集まり、異なる経験や違う視点に触れ、新たな気づきを得ることができました。

③社会人と学生の交流会＆個別企業説明会

12月に学生食堂で開催しました。この企画は、就職課と学生が一緒に考えイベント化したものです。学生と社会人が近い距離で自由に雑談ができる雰囲気をつくりました。会社説明会では伝えきれない働くことの楽しさ、社会人がどのような学生生活を送っていたかなど、ホームページや会社案内ではわからない「社会人のリアルな情報」を知る機会となりました。交流会は、学生の働くイメージを醸成するだけでなく、社会人も楽しめる異業種交流の場となりました。

④県内企業見学会バスツアー

主に大学２～３年生を対象とした県内企業を巡るバスツアーです。2022年は、製造、情報通信、広告、小売など10社を訪問し、県内企業の魅力を知る機会となりました。普段はあまり見ることのできない職場を見学し、実際に働いている社員と直接話をすることで業界や企業への理解を深めました。

県内企業見学会（今治造船株式会社）

キャリア支援は、学生の将来に関わる責任ある仕事です。４年間もしくは２年間という限られた期間の中で、学生一人ひとりに丁寧に対応していくことが必要です。そのために、私たち就職課もより良い支援ができるよう日々学んでいます。ぜひ就職課に足を運んでください。全力でサポートします！

ESSAY

つながりの大切さ

聖カタリナ大学社会福祉学科
雑賀　正彦

私は本年４月に着任し社会福祉士養成課程を担当しております。専門領域は地域福祉で、研究テーマは地域福祉実践、地域マネジメント、コミュニティソーシャルワークです。この研究を行う動機となったのは、20年間の現場実践によるものです。主に社会福祉協議会に勤務しておりましたが、５年間自治体に勤務していた時期もあり、多様なケース対応支援を行ってきました。なかでも、孤立死一歩手前の方やゴミ屋敷化している方、話相手がいない方など地域におけるつながりがない人が多くいました。その時に感じた違和感、疑問、課題が地域福祉研究への入り口であったと実感しています。

そこで、地域福祉とは何かについて以下、簡潔に説明します。

地域福祉とは限定された地理的範囲のなかで、一人一人が尊重され、お互いに助け合いながら、豊かな暮らしを目指す取り組みです。そのために必要な構成要素は、住民主体、地域組織化、予防的福祉です。これらの要素に共通することは一言でいうと地域におけるつながりとなります。そこで、このつながりについて、私なりの見解を述べたいと思います。

まず、つながりのない状態は孤立・孤独であり、イギリスにおいては孤独担当大臣が任命され、次いで日本においても同様の担当大臣が任命されている現状にあります。つなりがない状態すなわち孤独・孤立は社会問題となっています。では、この孤独・孤立を解消するためには、どのような取り組みが必要でしょうか。それは、地域におけるつながりということになります。しかし、今日の地域においては誰かが関わらないとつながりが生まれない状況にあります。また、つながりには強いつながりと弱いつながりがあります。世論調査によると、現代人は弱いつながりを望んでいる傾向にあります。しかし、地域において弱いつながりを多く作ることで、何かあった時には強いつながりに変わることもあります。さらに、つながりを作るための場も必要であり、この場を「交流拠点」や「共の空間」と呼んだりします。そこでは、参加して楽しい、面白い、居心地がよいと感じてもらえることが必要となります。そこで、地域における場づくりや人と人をつなぐ仕事として、社会福祉士が地域福祉活動を行っています。

以上のことから、地域という限定された地理的範囲における人のつながりが重要であることが理解できたと思います。つながりというのは自分のためでもあることを意識しながら地域において弱いつながりを多く作ることが重要であると言えます。

そこで、地域福祉に興味・関心を持ってもらい、地域で人と人のつながりづくりを行う社会福祉士を一人でも多く養成したいと考えながら、教育活動及び研究活動を行っております。

ゼミナールインタビュー

人間健康福祉学部　健康スポーツ学科
今城　遥ゼミ

ゼミのテーマを教えてください。

今城遥ゼミでは、ダイバーシティ社会の中で多様な人々がともに楽しむことができるスポーツの魅力を伝えられる指導者の資質能力を高めることをテーマに掲げ、「体育科教育学」や「アダプテッド・スポーツ科学」などの学問から学びを深めています。学校体育では、平成29年度からの中学校・高等学校の学習指導要領改訂により、豊かなスポーツライフの実現を重視し、スポーツとの多様なかかわり方を楽しむことができるようにする観点から、体力や技能の程度、性別や障がいの有無などにかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう、共生の視点を踏まえた指導内容が示されました。また、スポーツ基本法に基づき、策定された第３期スポーツ基本計画においては、国民がスポーツを「する・みる・ささえる」ための新しいスポーツの視点として、「つくる/はぐくむ」「あつまり、ともに、つながる」「誰もがアクセスできる」という３視点が加わりました。その中で、社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し・改善し、最適な手法・ルールを考え、作り出すという視点と、性別や年齢、障がいの違いによって、スポーツ活動の開始や継続に差が生じないような社会の実現や機運の醸成を図る視点については、アダプテッド・スポーツ科学の観点から学びを深めています。学生たちは学外のスポーツ活動へのボランティア活動などを通して自らがスポーツの魅力を発信することを体験しています。本ゼミでは、「みんなが楽しめる体育・スポーツ」を目指して様々な人とのかかわりを経験しながら、学生たちの共生の心を育む活動をおこなっています。

ゼミのスタイルを教えてください。

今城ゼミには、保健体育科の教員免許取得を目指す学生だけでなく、指導者としてスポーツ指導や運動遊びなどをおこなうことを目指す学生も所属していることから、様々なニーズに合わせた学習内容や活動を提供できるよう心がけています。主にテーマを決めたプレゼンテーションや模擬授業を通して、人前で話す自信や多様なニーズに応じて教材を簡易化する柔軟性を身につけることができると考えています。

卒業研究については、学生各々が興味や関心をもっているテーマを定め、各自が自主的に進められるよう計画を立てて指導しています。また、学生それぞれの進路希望に応じた指導だけでなく、日ごろの悩みや学生生活の中での相談なども受け、学生に寄り添いながら課題解決に向けた指導をおこなっています。

ゼミの特徴を教えてください。

教師や指導者として、人前に立って伝えるためのノウハウを学ぶために、プレゼンテーションや模擬授業を通してコミュニケーションスキルの向上を目指しています。また、大学の中での活動のみならず、学外ボランティア活動に積極的に参加し、社会貢献に寄与する姿勢を育めるよう心がけています。これまでには、障がい者スポーツ大会や車いすバスケットボール大会のボランティア活動、パラスポーツ体験会での指導や、特別支援学校での体育授業を見学・体験してきました。学生たちが自ら学ぶことのできる環境があることは、学生の自信につながっており、学生たちは和気あいあいと楽しく活動をしています。

今城遥ゼミは こんなゼミ

今城ゼミは、それぞれが興味を持った分野について実践的に学ぶことができます。分野は一人ひとり異なりますが、模擬授業を全員がおこない、それぞれの視点からの意見交換をすることで、常に客観的視点から学ぶこともできます。また、多くの時間をボランティアへの参加や現場実習に充てていることで、学んだことに対するインプットやアウトプットが実践を通して行うことができます。さらに、社会に自ら出ることで、社会性を学ぶことが多く、地域の人々との交流を通して日々成長することができます。先生のゼミでは真面目に授業も行いますが、定期的に先輩方との合同ゼミも行うなど縦のつながりの中で学び、時に楽しい催しで交流し合うこともありとても楽しいです。和やかなゼミの雰囲気の中で楽しく、全員が将来の目標に向かって学ぶことができます。

健康スポーツ学科３年　沖野　彩華

クラブ紹介　読み聞かせクラブもちもちの木

読み聞かせクラブもちもちの木は、結成３年目になるサークルです。サークルに登録する前は、短大のメンバーで北条小学校での読み聞かせ活動を行っていましたが、サークルになってからは、短大だけでなく、大学からも「子どもが好き」「絵本が好き」という気持ちのあるメンバーが集まるようになりました。

活動内容は、北条小学校及び北条幼稚園での読み聞かせ活動を中心に行っています。コロナ禍でこの２年間は小学校での活動ができていませんが、昨年度から北条幼稚園での活動が加わり、子どもたちに絵本の読み聞かせを行っています。始めは、読むことが苦手だったメンバーも、回数を重ねるごとに、絵本の魅力を考えながら伝えることが出来るようになりました。

また、昨年の12月には、有志の学生と協力をして北条児童センターで『絵本でつながる地域の輪』のイベントを開催しました。イベントでは、地域の親子や高齢者の方々と民話やクリスマスリースづくりを行いながら、交流を深めることができました。

今年も新しいメンバーとともに12月に北条児童センターでイベントを行います。

コロナ禍で活動が思うようにできませんが、絵本を通した活動を、メンバーで工夫しながらこれからも行っていきたいと思います。

教員著書紹介

保育内容指導法「人間関係」

谷口　聖
（聖カタリナ大学短期大学部
保育学科　助教）
出版社名／萌文書林

近年、乳幼児期の人間関係の育ちに注目が集まっています。乳幼児期の人間関係の育ちがその後の人生において大きな影響を及ぼすと言われています。これらは、社会情動的スキル（非認知能力）と呼ばれ、乳幼児期に育てたい力として注目を集めています。社会情動的スキルは、主に目標の達成、他者との協働、情動の制御に関わるスキルであり、目に見えない（数値では測りにくい）能力ですが、これらの力の育ちが今後の子どもの人生を豊かにするのです。

本教員は社会情動的スキルに関連する幼児期の「自立心」の育ちや「協同性」の育ちについての「事例検討」や、人間関係の育ちに注目し、具体的な指導場面を想定した「模擬保育」について執筆しています。具体例や写真を効果的に使用し、理解しやすいように工夫致しました。

本書は、保育者を目指す学生の「人間関係を育む指導法」を学ぶことを目的に作成致しましたが、保育現場として務めておられる保育者の学び直しにもなるのではないかと考えています。新たな知見として、是非参考にして頂ければ幸いです。

大学ドローン動画

大学公式LINE

※LINEのQRコード読み取り画面でスキャンするとLINEの友達に追加されます。

大学公式Instagram

受験希望の方

大学HP

保育学科ブログ

Amor et Veritas SCU
学校法人 聖カタリナ学園
聖カタリナ大学
カタリナひろば vol.35
編集・発行
広 報 委 員 会
〒799-2496　愛媛県松山市北条660番地
TEL (089) 993-0702 (代)
kouhou@catherine.ac.jp